

○発行に当たって

当博物館では、県民に親しまれる開かれた博物館づくりの一環として、平成18年度から月に1回、「鹿児島県の自然だより」を発行することになりました。内容は県内の地質・植物・動物に関する、学芸主事を中心にした日ごろの調査・研究の最新情報や四季の移り変わりに合わせた郷土の自然の紹介などです。より多くの県民のみなさんに親んでもらえるシリーズにしていきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

◇ ◇ ◇ ◇ 春に見かける白いチョウ ◇ ◇ ◇ ◇

昆虫担当 中峯浩司



今年は春の到来が早く、モンシロチョウが鹿児島市内で初めて確認されたのは、私の知る限りでは2月11日でした。ちなみに、去年は、その前の年の度重なる台風の接近・上陸の影響が残り、4月に入っても稀に見られるだけという異常な春でした。ただし、その後は回復し、今年の春を迎えたようです。

この他にも4種がいます。特徴をつかんで、全種発見に挑戦してみましょう。

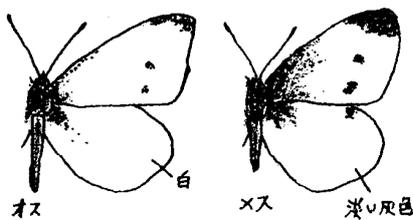
ところで、昭和32年5月15日、モンシロチョウが大群で鹿児島湾を渡り、新聞をにぎわしたことがあります。昭和38年5月には加世田にも出現。5月、陸上・海上での集団移動にご注意！ また、その他チョウの群れを見たことのある方も、博物館に連絡をお願いします。

県本土で春に見られる白いチョウとしては、

<博物館TEL 099-223-6050>

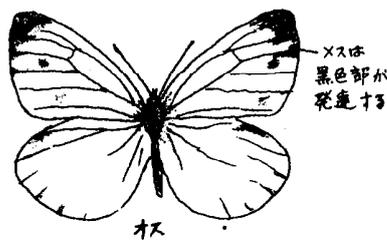
モンシロチョウ

一般にはキャベツの害虫としておなじみだが、野生のアブラナ科植物にも普通に産卵する。



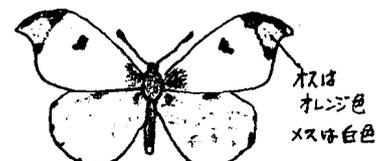
スジグロシロチョウ

羽に黒い筋がたくさん入るのが特徴。♂はモンシロチョウにはない特有の香りをもつが、感じ方には個人差がある。人里に多い。



ツマキチョウ

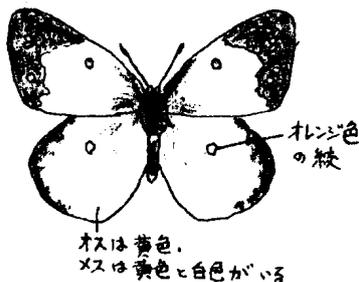
スプリングエフェメラル（春のはかない命）と呼ばれ、年1回3月中旬～4月にだけ成虫が見られる。



蝶はふつう翌年の春に羽化するが、時に2年後、3年後に羽化するものもいて驚かされる。

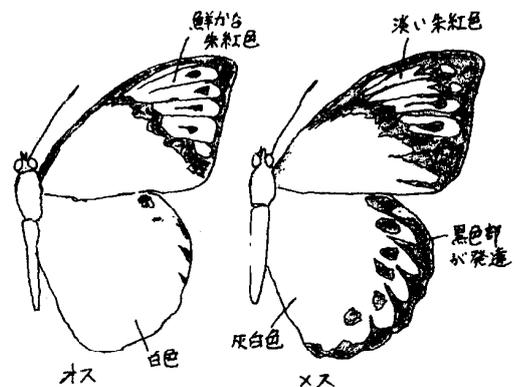
モンキチョウの白色型♀

モンキチョウの♂は黄色。♀は黄色いものと白色のものがある。シロツメクサなどマメ科の生える明るい草地にすむ。



ツマベニチョウ

薩摩・大隅の南部で4月下旬から見られる。他の地域で見かけた方はご連絡を。食草はイカ餌木（えぎ）の材料となるギョボク。



春に見かける黄色いチョウとしては、モンキチョウ、キチョウ、ツマグロヤチョウの3種がいます。いずれもシロチョウ科。

この他、6月以降は南方から飛来するナミエシロチョウ、カワカミシロチョウ（稀）、ウスキシロチョウ（♀は黄色）など、中型の白い蝶が見られることがあります。